

<b>第6回 第4分科会会議録（概要）</b>		場 所	新宿区役所第1分庁舎 7階研修室
日 時	平成17年9月8日 午後6時06分～午後8時10分	記録者	【学生補助員】 坂巻、佐藤
		責任者	区事務局（熊澤）
会議出席者：42名 傍聴者0名 （区民委員：36名 学識委員：2名 区職員：4名）			
<p>■配布資料</p> ①本日の次第②新しいグループ別名簿③新宿区都市マスタープラン ④歩きたくなるまち新宿⑤パワーポイントの資料 ⑥第4分科会資源循環促進を考えるグループからの意見提供資料 ⑦東京ゼロックスの社会貢献活動 <p>■進行内容</p> 1 開会 2 本日のテーマ ・都市マスタープランとランドデザインの説明（まちづくり計画担当副参事） ・環境に対する企業の取組み（伊藤委員） ・グループワーク（各グループの活動方針） 3 事務局からの連絡事項 <p>■会議内容</p> 【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員                 1 開会（○：説明）18：06開会 ○：（熊澤）みなさんこんばんは。 第6回第4分科会会議を始めたいと思います。はじめに資料の確認をお願いします。 <p>・配布資料の確認</p> ①本日の次第 ②新しいグループ別名簿 ③新宿区都市マスタープラン ④歩きたくなるまち新宿 ⑤パワーポイントの資料（③④説明時に使用） ⑥各グループからの提供資料 ⑦東京ゼロックスの社会貢献活動（伊藤委員から企業の取組みについて話していただく時の資料） <p>・本日の進行</p>			

- ：(熊澤) 本日の進行については次第の通りです。まず、都市マスタープランの説明を行います。そして、その後、伊藤さんのほうから環境に対する企業の取り組みをお話いただきます。その後、グループワークを行います。そして、事務局からの連絡事項を行いまして、閉会は8時15分を目途に進めていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。それでは吉田先生お願いいたします。
- ◎：(吉田) 皆さんこんばんは。本日は区に都市マスタープランについての説明をしていただきたいと思います。時間の関係上概略のみとなってしまいますが、後ほど勉強していきたいと思っております。都市マスのほうにつきましては私たちが提案しようとしている基本計画と、特にその中の都市計画の部分と密接にかかわっていると思っております。詳しい説明は担当者の方からお願いしたいと思っております。また、前回、活動している委員の方がいらっしゃいましたら是非、情報をご提供くださいとお願いしましたところ、伊藤委員からゼロックスの取り組みについてご紹介いただけるということで、お話いただきたいと思います。本日は、この2点について情報を共有していきたいと思っております。その後、グループワークをしたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願いします。

## 2 本日のテーマ

### ・都市マスタープランとランドデザインの説明

- ：(まちづくり計画担当副参事) 都市マスタープラン(以下都市マス)は平成8年(1996年)の5月に始めて作成されたものです。(元々は平成4年の都市計画法の改正に基づいて創設された。)日本のまちづくりというのは、明治からの流れとしましては、国が基本になっており、東京都や新宿区がそれに従う形で、住民の方とは相容れない場合が多かった。どうしても上からの形になっていたということがあり、現実にはなかなか都市計画は進まなかった。そういったものに対してどうしていけばいいのだろうと考えられたのが都市マスです。住民の方と将来の都市づくり像、町づくり像等を共有しながら、やっていかなければ町づくりは進まないだろう。また区民の皆さんの前では言い難いですが、NIMBY(Not In My Back Yard)イズム。分かりやすく言えば、『(私にとって迷惑な施設を)他所では作ってもいいけれど、私の住む所では作らないで』、そういった考え方もあるだろうから、無くしていかなければいけないんじゃないかと。
- 法律では、都市計画法18条の2が都市マスタープランになった訳ですけど、都市マスが基本になった訳ではない。この上に、都市計画法第7条『整備、開発又は保全の方針』があり、それを受けて都市マスがある。そして都市マスは個別の部門計画(みどりの基本計画、住宅マスタープラン等)の上に立つような方針になっています。また個別部門計画は、個別都市計画や、開発プロジェクトなどの基本になっています。ですので個別部門別計画は、都市マスに則ったものでなければならぬ。基本構想・都市マス・基本計画、この三者が一体となって、新宿区の町作りを担っていくという形でご理解頂ければと思います。次に都市マス構造、枠組みとしては、『新宿区の将来像』、今分科会

でやっていますが『「部門別のまちづくり方針」と「地域別整備方針」』『まちづくりの実現方策』と3つあります。具体的な将来都市像としては、『生活都市＝新宿』というものを位置付けております。外から見た新宿は業務都市といったイメージ。歌舞伎町など治安の問題で、住みたくない町の第一位とか。現実の新宿、内側から見た新宿と違っている。このまま業務都市になってしまっているのだろうか、やはり住宅とか、これからも区民の方が暮らし続ける町。そういう町にしていこうということから、将来都市像を『生活都市＝新宿』。その中身としては、「開かれた都市」、多様な人々の居住を支える豊かな住まい、生活空間、産学に開かれた都市にしていこうというのをまず大きく1つ位置付けていこうと。それから「魅力ある都市」にしていこう。にぎわいと活力を支える都市サービス。そういったものが提供され、享受できる、魅力ある都市にしていこう。3つ目として「快適な都市」。これこの分科会の一番大きなテーマじゃないかと思いますが、子供をはじめ高齢者の方まで、全ての人が暮らしやすい安全で快適な都市、そういう都市にしていこう。新宿区を鳥瞰図、鳥の目で見ると、やはり新宿駅周辺に商業集積、業務集積そういったものが多い。都市構造としては、ここを新都心として位置づけている。でもそうじゃない姿が新宿区にはあって、虫の目で見ると、中井のような生活中心や生活の軸として早稲田通りがあったりします。公園があったり。そういう都市構造を描いています。もう少し細かく見ていき、土地利用の方針、市街地整備の方針では、新宿駅周辺は新都心の業務商業提携型、ここは日本の発展を率先していくところだろうと、これが他にはないような新宿の大きな特徴。また新都心の周辺でも、やはり居住というものがあるよということで、新都心の複合整備型ということで、複合的に居住する場所も周辺にあります。

住宅・住環境整備の方針では、ゆとりある住空間の形成と、魅力ある都心居住を実現していくんだ、そして多様な人びとの交流を育む都市型コミュニティの育成を行っていくことなど、色んな整備方針を位置づけています。

防災都市づくりの方針では、延焼遮断帯を整備していくことを位置づけています。

みどり・公園整備の方針、こちらについてはみどりの基本計画を位置づけたものという風にご理解いただければと思う。水と緑のネットワークを将来的に整備していけたらと思っています。都市アメニティ形成の方針は、この分科会でやっていただくことに関係がありますが、都市マスが初めてソフトの部を位置づけたのが大きな特徴になっています。福祉とか。地域別整備方針では7つの地域区分があるが、ここでは大久保・柏木地域の町づくり方針については『都市生活を楽しめるゆとりあるまち』という将来像を位置づけ、地域でのサービス拠点を育成するなどです。

最後にまちづくりの実現方策としては、やはり協働のまちづくりでなければいけないのいかと思います。地域にあったまちづくり、オーダーメイドのまちづくり、地域の人とつくるまちづくりをしていくことです。

続いて新宿区町づくりグランドデザインの方のご説明をします。グランドデザインは、これからの町づくりの方向性はどういうものか示すもの。グランドデザインは、①新宿

まちづくり懇談会の報告書として、②ハードとソフトを融合させる新しい町づくりの提案として、そして基本構想、基本計画、都市マスタープラン改定の素材として位置づけられている。中身を説明すると、歩きたくなるまち新宿をつくるため、3つのコンセプト、賑わい・交流のまち新宿、芸術文化のまち新宿、安全安心・潤いのまち新宿を目指す。また具体的に実現するための仕組みとして、①一人ひとり画公共サービスの担い手になる仕組み②協働と参画を区政の礎とする仕組み③区役所を地域の力の結集点とする仕組み④まちをつくるインセンティブが働く仕組みの4つを位置づけている。これからの町づくりにインパクトを与える意味で、5つの取り組み①歌舞伎町からの再生②水と緑のネットワーク③減災社会への取り組み④景観行政団体としての町づくり⑤賑わいの産業作りがある。歌舞伎町をどうやっていくかというのが一番の課題です。

○：(熊澤) ありがとうございます。本来ならばここで皆様からご質問等あると思いますが、大変申し訳ありません、時間の都合上、ご質問のある方は、書式は問いませんので質問事項を企画政策課までお願いします。後日、回答いたします。続きまして、環境に対する企業の取り組みということで伊藤委員からのお話をお願いしたいと思います。

・環境に対する企業の取組み(伊藤委員)

●：(伊藤) こんにちは。ゼロックスの伊藤と申します。

お手元の社会貢献のものをご覧ください。まず、社会貢献についての考え方というところから紹介していきたいと思います。まず、企業、今の資本主義社会の中では継続的に活動していくと。その活動も拡大再生産の形を取っていく必要があると思います。その拡大再生産の形を取りながら、いろんな規制、法規制、社会の規制、社内の規制、倫理の規制、道徳の規制、そういうものを受けながら活動しているわけですが、ここにあります企業のCSR、企業の社会的責任、これにはどういう側面があるかといいますと、経済的な側面・環境的な側面・社会面の貢献という、この3つを企業は企業活動の中でやっていかなければならない。まず、経済的な面は、企業本来の活動です。われわれゼロックスとしては自分たちの作ってきたシステム・商品・サービスを通じて、社会に対してより豊かにしていくという責任を持っています。また、環境に対しては、世界の一員として、豊かな自然と共存し、地球環境や資源を保護し、好ましい環境づくりを推し進めていかなければなりません。最後の企業の社会的側面はどうなのかといいますと、社会の一員として、社会の信頼に答えて、人間社会・自然社会に貢献できなければいけない、ということで、企業の中で活動を通してやっております。

今私たちがやっている活動の中で、資料に環境の側面としてやっている活動があります。これは企業としてやっているのではなくて、企業の中の社員が、裏表紙にある「かけはしクラブ」というクラブ活動みたいなもので社会への貢献を、という形で活動し

ています。これは社員が毎月の給料から1人1口100円以上のものを一応、活動の資金として出す、これもある程度NPOさんなどからの寄付などもありますし、新宿区であれば、社会福祉協議会の賛助会員にもなっておりますし、そういうシステムもあります。私たちが今参加している活動では、東京都が実施している「東京グリーンショップ・アクション」があるのですが、ここでは玉川上水あたりの環境美化保全、道路整備、雑木林の整備などをやっております。また、八王子の大谷では植林ですとか、日立酒井から体験的に子供さんたちに田植え、稲刈りをしていただく、という活動をしております。また、滝山街道の戸吹というところで山林の保護をしております。ここでは水路が去年の台風で倒壊しているのでそこを整備して水路を作るなどして、八王子といたしますか、そこに特有の「仏どじょう」や、また、「めだか」、生息できるようにしていく、「山椒魚」などを増やしていくような活動をしています。以上言ったあたりが新宿の上流のほうですが、新宿の上流のほうをきれいにすることで下流の方の新宿もきれいになっていくのではないかと思います。もう一つ、社内的にやっているのが（財）日本自然保護協会さんとの共同で、資料にありますが、「自然観察指導員講習会」に参加して、どんな形で自然を見ていくのか、どんな形で自然を保護していくのかを勉強して、実践していくという活動をしています。環境問題に関して私たちが個人で、社員としてやっているのが資料のP. 7、8の内容です。

（パワーポイントを示して）これが、私たちが取り組んでいる社会貢献の活動なのですけれども。ここに、この環境の分野が始まってから皆さんがいろいろとお話しされたことが入っていると思います。まず、京都議定書などは地球環境の問題をやっていくわけで、この中でオゾン層を破壊するCO2の問題だとか、地球規模で考えると海洋汚染、地球温暖化、熱帯雨林の減少、砂漠化、酸性雨、廃棄物の撤去問題など、先ほども述べられましたように、自分の地区だけよければ他に持って行ってしまうという投棄問題も起こっています。また、野生生物の減少。これが地球的な規模の問題です。あとは、その他の環境問題がありますが、では新宿という地域別にはどうしたら良いかというのは、地盤沈下はあるかわかりませんが、大気・水質・土壌汚染、騒音、振動音、新宿駅付近の悪臭、廃棄物問題、ゴミの処理ですとか、こんなことを全体として考え、取り組んでいます。企業としては3R、リサイクル、リユース、リデュースというのがあります。私たちゼロックスは環境配慮型の商品を売っています。例えば、使っているコピーの機械では99.9%がリサイクルないしは再利用できるものです。それから、社内では森林への配慮などを意識し、極力紙を出さないということ。これは、今年に対して来年は5%削減だとか、それを実現するにはどうしたらいいか考えるという形で取り組んでおります。また、電力エネルギーも前年に対して1%削減していくと。どんな活動をしているかといいますと、昼休みには殆ど電気を消してしまいます。パソコンも消しています。オフィス内の一般産業廃棄物も前年比2%ずつ削減していきますと。去年よりも1割増えていますけど、それを減らして行くとしています。また、私どもの機械をつかっているお客様に対してわたしたちの環境への

取り組みを話し、お客様と一緒に考え、一緒にできることはないかと提案し、お客様のところでも、同じように電力削減、ペーパーを減らしていくなどの活動をしています。もう一つ、これは一般家庭でもできるのではないかと思います、グリーン商品があります。これは一般商品より割高ですが、社内ではグリーン商品を勧めています。以上、簡単ですが時間通りで。もし、みなさんにお配りした中でわからないことがあったら聞いていただいて結構です。これは、実際に取り組んでいるものをデジカメで撮ってやっていきます。この中でも私たちが一緒に活動しているNPOさんもございます。

○：(熊澤) ありがとうございます。ここでせつかくですので質疑の時間をとりたいと思います。何か質問はございますか。

(質疑応答)

- 1 : 富士ゼロックスというのは・・・？
- : (伊藤) 富士ゼロックスが生産機能・販売機能をもっておりまして、あとは、東京、多摩といった販売会社が各県にあるのですが、東京ゼロックスとか、神奈川ゼロックスとかいいます。
- 1 : 他企業との連携はありますか？
- : (伊藤) コピー業界でもそうですが、リサイクルの問題でコピーのパネル(プラスチック)を一つの工場、キャノンとリコー、ゼロックスと、一つの業者に委託しています。
- 1 : 例えば新宿副都心地区である程度の組織とか、各企業の連携は取れるのか？実績を教えてください。
- : (伊藤) 「新宿企業ボランティア連絡会」があります。大製建設、モスバーガー、東京ゼロックス、東京電力、東京ガスなどが参加しているのですが、3ヶ月に1回連絡会を行っています。「エコ企業連絡会」にも登録して、連絡会を年2回やっております。こういうことをしようというのは、まだ。
- 2 : エスコ事業とか現在やっていること、これから検討されていることというのはありますか？
- : (伊藤) ここにあるのが環境目標なのですが、これによると、電力エネルギー削減については、2005年度は前年比1%削減。2007年度2%減。また、TP用紙2006年度は2%削減とか。2007年には2005年度比5%減。オフィスの一般産業廃棄物も前年に比べて2006年度2%減、2007年度5%減という形にして、これを毎月各部門などで計画を出させます。それで、目標を達成できなければ是正措置がとられ、原因を解明していくという形を取っております。
- 3 : お話、大変勉強になりました。ゼロックスの社員数と、社員の協力に対して会社の援助、協力はどのくらいあるのですか？

- ：(伊藤) 社員数は今、1000で、今度10月には、東京ゼロックスが事業主体としてやるようになるので、2500になります。会社はボランティア活動に対しては申請ベースですが、かなりの自由があります。例えば、今年2月26日から3月5日に長野で知的障害者のスペシャルオリンピックが開催されまして、私はそこに10日間行って来たのですが、この時は社員が全部で10人、交代にですが参加しました。この際の交通費、宿泊代は会社が全部出してくれました。そういう社会貢献などに対して人事効果があってもいいのではとの話がありますが、そこはボランティアという観念でやっております。
- 4：今お話になっている御社の動きについて。まちの活動に対して申請のあったものについてとりあげ、審査し、企業活動にしているのかどうか、その辺ちょっと触れていただければ。わたしたちがどう活用すればいいのかに関して心配がありまして。
- ：(伊藤) 申請のようなものはありません。私の方から社会福祉協議会・新宿区・子供会・学校などから支援先を自ら見つけて、社内に展開していくという形です。私は今、新宿の共同基金の委員をやっているのですがそのNPOさんが90くらい、申請ベースですね。そこから、困っているということが出てくるので、それのお手伝いをします。今私たちが力を入れているのが子育て分野です。大久保小学校の児童さんの7割が外国籍の方だということで、親と子の日本語教室を展開しています。それも、輪です。人と話している中でこういうところがあるのだけど、という話から、じゃ、いってみようとか出かけて行って、お話をし、お手伝いをしていくという形です。
- ：(熊澤) ありがとうございます。他にご質問はございませんか。また、ご質問のある方もいらっしゃるかと思いますが、幸運にも伊藤さんが第4分科会に所属して毎回いらっしゃると思いますので、時を見て直接お聞きくださっても結構だと思います。また、伊藤さんのように企業の取り組みなど話していただける方がいらっしゃいましたら私のほうにご連絡をいただきたいと思います。宜しくお願いします。伊藤さん、今日はありがとうございました。
- ：(伊藤) 最後に、NPOの森と田園クラブさんも、今イベントのたびにお手伝いしているのですが、これも新宿の共同支援会議の申請団体さんで、じゃあ少しうちの若いのがいるから、高尾山で自然との体験コースをやっているんで、お手伝いをしようということになりました。
- ：(熊澤) ありがとうございます。では、続いてグループワークに移りたいと思います。吉田先生、宜しくお願いします。
- 2 グループワーク(19:20ころ～)
- ◎：(吉田) 伊藤さん、ありがとうございます。伊藤さんのお話をうかがっていて、今日

も初めのほうの資料、画面に映らなくて残念だったのですが、社会、経済、環境の3つの観点から貢献活動に取り組まれているということで、この3つのラインの三角形の点の中に企業があって、企業がそれぞれの観点から取り組まねばならないということをお話くださったのだと思います。大変勉強になりました。伊藤さんの会社の方々が申請ベースですが、様々な活動に取り組まれている。もしかしたら、お前行って来いといわれて取り組んでいる人もいるかもしれませんが、そういった方が、住民の方と触れ合い、面白さを感じて自分で行動していくということがうまれていけば、もっとこのような活動が広がってくるだろうと思いました。伊藤さん、本当にありがとうございました。

それで、本日のグループワークですが、皆様にご協力いただきながら、今日は各6つのグループ、それぞれもう活動をはじめていらっしゃるグループもあると思いますが、ここに5つ括弧書きをしてみました。前々回も口頭でお伝えしたのですが、活動は各グループの自由とは思いますが、方向性、何らかの共通の項目がないとお互いに情報交換ができないということで、この5点を意識しながら、今回は各グループの活動の方針を模造紙にまとめていただいて、お互いに何をするのかを把握していただければと思います。既に、いくつかのグループはミーティングをされて活動の内容をペーパーにまとめているとうかがっておりますので、そのグループはそちらをお使いくださって議論していただいて結構です。今回初めて、というグループはこちらの5点を意識してまとめていただければと思います。

〈5つのテーマ〉

- (1) 目標の設定 (2) 現状の把握 (3) 課題の洗い出し (4) 取組・施策の評価 (5) 具体的なアイデアの提案

◎：(吉田) まず、1つ目は目標の設定です。これは当然のことですが、それぞれのグループのキーワードがありますが、それを元にまち美化、緑化、資源循環、エコエコ、温暖化、環境教育・学習とチーム名がついていますが、それぞれのグループの目標を定めていただきたいと思います。仔細に作っていただく必要はありませんが、皆さんの中でそれを設定していただきたいと思います。それから、現状をつかんでいくための方法をどうしたらいいか、資料にあたる、現地調査、また、既にご提案くださっているグループもあると伺っていますが、そういった方法をまとめていただければよろしいと思います。3つ目は課題の洗い出しです。どんな課題・問題があるのかをみつけていく、そのためにどんなことをするのかをお話し合いただければと思います。4つ目は、取り組み施策の評価、今後行政さんに行政評価というところでお話いただければ勉強になるのではと思っています。具体的に新宿区で取り組んでいることで、それぞれのチームに関わる部分をまず評価することも必要であると思います。例えば、放置自転車に対する実際の取り組みを知ることも必要なのではないかと思います。そ



のためには、区の担当の方や、また、区で既に活動していられる方にインタビューしていただくということもあるかと思います。5つめは具体的なアイデア・対策の提案です。問題を調べ、挙げただけで済ますのではなく、われわれだったらどうするか、という具体的アイデアを出すことも大事かと思います。このポイントを抑えながら、各グループの今後の活動方針をまとめ、発表いただいて皆で共有したいと思います。時間が足りないとは思いますが、不足する部分はこの後の懇親会で、ディスカッションしていただければと思います。時間時間と恐縮ですが、スケジュールを守ることも大事だということを区民会議でも決めていますのでご協力お願いいたします。この言葉にこだわる必要はありませんが、1つ位はおさえてお話ししていただければまとめ易いのではないかと思います。それでは、模造紙をお配りします。各グループのリーダー、サブリーダーの方を中心に10分から15分位で打ち合わせ、まとめの作業をしていただき、発表は1、2分位でよろしく申し上げます。

(グループワーク)

- ◎ : (吉田) 本日は時間ギリギリまで議論をしてくださって構いません。まとめていただいているところはまとめていただいて結構ですので、議論を深めていただければと思います。また、次回の分科会の時にまとめてご発表いただければと思いますので、よろしく申し上げます。
- ◎ : (吉田) 本日の作業は続けていただいて、次回分科会までにそれぞれにまとめてご発表いただきたいと思います。

### 3 事務局からの連絡事項

〈次回以降日程〉

第7回 9月24日(土) 13:30~15:30 区役所第1分庁舎 7階研修室

- : (熊澤) 事務局からの連絡事項です。次回の会議日程についてですが、今回は第7回になります。9月24日、土曜日、13:30から15:30ということで区の第一分庁で開催しますのでよろしく申し上げます。欠席の場合は事前にご連絡をお願いします。

また、これは情報としてですが、第4回のまちづくり学講座が早稲田大学で開催されます。次回のテーマが「環境都市と未来」ということで一番、第4分科会に関わりの深いところですが、日付が10月19日(水)、18:00から、国際会議場、皆さんが最初にお集まりいただいた大きな会議場なのですが、その3階の第1会議室で行いますので、お時間があるかたはぜひいらしていただければと思います。

また、リーダー会議を次回24日までの間に、各グループの報告などの関係で、各グ

ループリーダーの方にお集まりいただき、今後の方針等も合わせてお話し合いをしたいと思っております。申し訳ありませんが、解散後、リーダーの方には少々残っていただき、日程調整をさせていただきたいと思っております。本日は以上ですが、何かありますか？

◎：(吉田) 今日このプロジェクトの早稲田大学でリーダーをなされております寄本先生がいらっしゃっていますので、先生に一言ご挨拶をお願いしたいと思っております。

◎：(寄本) こんにちは。私は第6分科会に所属しておりますが、今回第4分科会の大変熱心な議論に刺激を受けました。いただいたパワーを持ち帰って第6分科会にいただいて帰りたいと思っております。

○：(熊澤) ありがとうございました。それではこれで本日の会議を終わらせていただきたいと思います。本日はお疲れ様でした。